

矢作川流域圏懇談会通信

R2 海部会編 vol. 3



発行日：令和2年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第45回海部会WGを開催しました！

10月27日（火）に第45回海部会WGを新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。今回は佐久島を訪れ、海岸における漂着ごみの状況、アートを軸とした取り組みの状況等について、現地視察と話し合いを行いました。

日時：令和2年10月27日（火） 11:00～18:00

場所：西尾市佐久島

参加人数：16名 ※事務局を含む



◆主な活動内容

1 佐久島の現地視察

■海岸での鳥類観察

一色港からフェリーに乗り、海苔養殖の竹柵などを観察しながら、佐久島東港に到着しました。民宿市兵衛で昼食をとった後、海岸にそってウォーキングしながら、高橋伸夫氏の解説で野鳥観察を行いました。佐久島を代表するミヤコドリや、多くのカモ類が観察されました。

■カモメの駐車場

大浦海水浴場では、美術家 木村崇人氏の作成した、カモメをモチーフとしたアート作品「カモメの駐車場」と佐久島の風の関係などについて、内藤美和氏に解説していただきました。風に向かって方向を変えるカモメの造形から、目には見えない佐久島の風の様子を感じることができます。

■クラインガルデン

クラインガルデンでは、内藤美和氏と三矢由紀子氏に、施設の目的や内容について説明していただきました。佐久島クラインガルデンは、離島では全国初の「滞在型農業体験施設」であり、家の前の畑を耕作することを条件に、名古屋市など都市の方々が滞在し、農業を体験します。クラインガルデンを通じて、都市住民との交流を活性化させることにより、地域づくりや利用者の定住を促進させることを目指しています。

■白浜海岸

白浜海岸をウォーキングし、浜に漂着するごみの現状を視察しました。参加者は、「佐久島漂着ゴミ BINGO」などを使ってごみの収集を行い、様々な漂着ごみの種類を記録しました。

■おひるねハウス

佐久島を代表するアート作品である「おひるねハウス」を見学しました。西集落の黒壁をモチーフにした3段・9部屋で構成されるハウスは、建築家 南川祐輝氏の作品で、土日には撮影のために行列ができるほどの人気だそうです。部屋に入り、海の方を向くと、自分だけの切り取られた風景を楽しむことができます。

■弁天サロン 「佐久島・秋の野鳥展」

弁天サロンのギャラリーに展示されている「知られざる野鳥の楽園 佐久島・秋の野鳥展」（西三河野鳥の会）を見学しました。写真提供者である高橋伸夫氏に、展示されている佐久島の野鳥について解説していただきました。

2 話し合い

平成26年に行った佐久島でのごみ調査を振り返りながら、漂着ごみの現状、マイクロプラスチック問題、「ゴミ BINGO」などを使った啓発活動の状況などについて話し合いを行いました。



海苔養殖の竹柵



民宿市兵衛 昼食



野鳥観察



カモメの駐車場



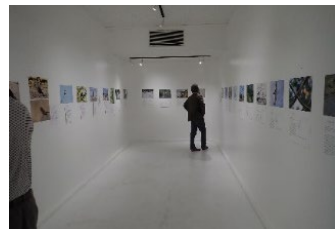
クラインガルデン 話し合い



白浜海岸 漂着ごみの調査



おひるねハウス



弁天サロン 佐久島・秋の野鳥展

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●佐久島の漂着ごみについて

■佐久島での漂着ごみの調査

- ・海部会では、平成26年に2回の漂着ごみ調査を実施した。白浜海岸と西の浜で実施しており、自然系のごみと人工系のごみを識別して記録を行った。(青木)

■漂着ごみの現状について

- ・ごみの問題は、美化の問題から水質の問題にまで及んでおり、海としても大きな問題になっている。ごみは流れ、海にたどりつく。佐久島はまだ漂着ごみが少ない方だが、答志島ではとんでもない量になっている。三河湾も伊勢湾の一部でつながっていることから、海の問題を矢作川流域圏でも考える必要がある。漂着ごみがどこから流れてきたのかをみると、いろんな流域が繋がっていることがわかる。(近藤)
- ・三重県四日市の海岸では、肥料用のプラスチックカプセルが最近急に見つかりだした。マイクロプラスチックによる影響は、まだ明確になっていないが、人や環境に及ぼす影響について想像力を働かせることは重要である。(近藤)
- ・海部会で、海底に沈んでいて見えないごみがとても多いという話題になったことがある。(青木)
 - ▶ 昔は、水産庁の助成事業でお金が出ており、漁業者が仕掛けた網に入ったごみは、陸に持ってきて処分ができた。海のごみ問題は、個人での対応は難しく、公的な機関による対応が必要である。(鈴木)
 - ▶ 碧南市では、テトラポットが大量のごみを抱き込んでしまっている。マイクロプラスチックの元ともなるので、行政が主導して対策をとる必要がある。(金田)
- ・ごみが集まるところは良い漁場だと言われているが、護岸が整備されてごみが集まる場所がない。砂浜とかは、打ち上がる場所があるので、ごみもそういう所に集まる。(石川)
 - ▶ 大阪湾は、全域がほぼコンクリート壁となっている。浜がないのでごみ問題もあまりない。ごみ問題があるということは、それなりの漂着できる浜があるということかもしれない。(青木)

■漂着ごみ問題の啓発について

- ・全国川ごみネットワークでは、「水辺のごみ見つけ!」という市民による一斉調査を実施している。また、「BINGO 川ごみ用」を配り、ごみを拾いながら、ごみへの関心を高める工夫を行っている。(近藤)
 - ▶ 西尾市では、佐久島に漂着するごみを加えたオリジナルの「佐久島漂着ごみ BINGO」を作成した。(三矢)
 - ▶ 啓発活動はとても大事なことで、学習や教育は必要だと思う。(金田)
 - ▶ 環境に影響を与える可能性があると思わずに使っている物が、問題を引き起こすかもしれないことを多くの人に知ってもらいたい。(近藤)
 - ▶ 昔は、飲み物の入れ物として瓶などのガラスが使用されており、回収されていた。また、ビニール袋の代わりに新聞紙を使っていた。(高橋)



ゴミ BINGO



●その他意見等

- ・12/26~27に「川づくりワークショップ」を名古屋で開催する。オンラインなので、矢作川流域圏懇談会からも発表を検討してほしい。(近藤)

今後の流域圏懇談会の予定

■海部会まとめの会

日時：令和2年12月15日(火) 14:00~16:00 場所：西尾市役所会議棟 第4会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iinet.or.jp)までお送りください。

